

授業研究進んでいます

9月28日に2学年、30日に1学年で授業研究がありました。どちらの学級も『決めつけ』について考える「じんけん」学習でした。

2学年では、「周囲の決めつけに同調してしまった私(登場人物)」に自分を重ねる子どもたちの姿がありました。子どもたちの中にも、「私」と同じように、決めつけに同調した子もたくさんいました。学習の中で決めつけられた人や、その友達の思いに共感的に寄り添っていくことで、決めつけが相手の思いを傷つけることを実感的に学ぶ様子が見られました。また、タブレットを使ってアンケートをとるといった画期的な手法も使われていました。

1学年では、「われたかびん(ぬくもりⅠ)」を大きく改作した資料を使っていました。「差別が分かりやすく描かれる原文」を、差別が分かりにくい状況へと改作し、子どもたちがその状況から何を思うのかを考える授業でした。2年3組実践と同様に、決めつけに同調する子がたくさんいましたが、授業終盤には決めつけが相手の思いを傷つけることを学んでいました。また、授業の中盤では「みんななら、決めつけをする人に何と言うか?」と、ロールプレイングを取り入れ、さらに実践行動につながるように工夫していました(裏面のQ&Aも参考にしてください)。

さて、どちらの授業も、今年度の研究計画に則った、次の手立てがありました。

- ・「答え」が透けて見えない資料を用い、立場を問う。
- ・自分(自分の差別意識)を見つめる過程と、それを見つめ直す過程を位置付ける。
- ・明るく勇気の出る終末となるよう、後日談を入れる。

授業者のお二人も手立ての有効性を感じているようです。授業を考える際に、ぜひ参考にしてください。



「UD フォント」使ってますか？



ワードのフォント一覧の中に、「UD」とつくものがあるのをご存知でしょうか。私も「何だろう?」とずっと思ってきましたが、実は「ユニバーサルデザイン」の略だそうです。「見やすい文字」だそうです。ここまでの文字は「HG丸ゴシック M-PRO」で打っています。

ここからは、「UD デジタル教科書体」です。確かに見やすい気がします。せっかくなので、これからは UD フォントを使っていこうと思います。

人権教育、同和教育 Q&A ①6

Q ロールプレイは演技をさせるだけでいいのですか？

A いいえ。演じた後に切り返すことが大切です！

ロールプレイは役割演技と訳されますが、役割を演技させるだけでは意味がありません。役割演技を行うことで、子どもたちは資料の状況に自分を置いて、どう行動するか、何を言うかなど、自分を見つめ直すはずで、きっと、最初の一言はあらかじめ考えていた言葉でしょう。最初の一言を演じた後、教師から切り返しを行ってみましょう。その切り返しにとっさに反応します。それがその子の本音であったり、本当の自分だったりするのかもしれませんが。その反応から、考えさせていきましょう。ただ、授業の中では次のような点に気を付ける必要があります。



注意

- ・差別の不当性を認識させる場面では「被差別者役、差別者役を子どもに演じさせない」
→つまり、子どもが演じるのは傍観者役となります。
- ・教師が切り返しを行っていく中で、「言い返せなくなること」もあります。その姿を悪い姿と捉えず、認めてあげましょう。
→「そんな風に言われたら悪いと思っても言い返しづらいよね」
→失敗体験にさせたくないで、そのときの気持ちをシェアリングしたり、一人では言えないけれど、友達と一緒に言えるという勇気をもたせたりするようにしましょう。
- ・演じている子どもだけの学習ではありません。見ていた子にも、「どう思う？」など、教師が発言をつないでいきましょう。